

モニタリングレポート(令和2年度)					
施設名	鈴鹿市第2療育センター				
施設所在地	鈴鹿市岡田701番地				
指定管理者名	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課	障がい福祉課	問合せ先	059-382-7626		
施設の運営状況	(確認方法)月次報告, 事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	4,533名	放課後等デイサービス延べ利用者数	595名	保育所等訪問事業	15件
事業収支	(確認方法)事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
指定管理料	33,252,000	33,252,000	0		
障害福祉サービス等事業収入	58,349,000	59,629,086	1,280,086		
その他	94,000	472,292	378,292		
事業活動収入計	91,695,000	93,353,378	1,658,378		
人件費(給与・法定福利費等)	70,929,000	70,720,765	▲ 208,235		
事業費	2,080,000	2,142,834	62,834		
諸謝金	150,000	150,000	0		
保健衛生費	204,000	201,813	▲ 2,187		
保育材料費	229,000	222,504	▲ 6,496		
消耗器具備品費	1,231,000	1,280,812	49,812		
教育指導費	236,000	243,087	7,087		
車両費	28,000	43,400	15,400		
雑支出	2,000	1,218	▲ 782		
事務費	5,662,000	5,668,941	6,941		
福利厚生費・旅費・研修費	247,000	235,243	▲ 11,757		
事務消耗品費・印刷製本費	496,000	527,690	31,690		
水道光熱費	788,000	727,899	▲ 60,101		
修繕費	50,000	39,600	▲ 10,400		
通信運搬費	385,000	376,460	▲ 8,540		
会議費・広報費	5,000	8,884	3,884		
業務委託費	1,386,000	1,437,600	51,600		
手数料	51,000	59,627	8,627		
保険料	393,000	392,050	▲ 950		
賃借料	1,110,000	1,126,580	16,580		
保守料	751,000	737,308	▲ 13,692		
負担金	10,000	10,000	0		
事業活動支出計	78,681,000	78,542,540	▲ 138,460		
事業活動収支	13,014,000	14,810,838	1,796,838		
施設整備等による収支	▲ 3,691,000	▲ 2,750,980	940,020		
その他の活動による収支	▲ 10,041,000	▲ 10,038,238	2,762		
当期資金収支	▲ 718,000	2,021,620	2,739,620		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	○	当期資金収支差額合計、当期末支払資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。 (差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			○適・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			○適・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			○適・不適
報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			○適・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
令和元年10月に開設し2年目の運営となった。旧牧田幼稚園を改修した施設のため、利用にあたり注意が必要な環境(廊下が屋外に面しており、すぐに屋外に飛び出すことができる環境等)ではあるが、運営上の配慮を行い円滑な運営を行っている。 今後も環境面に対応した配慮を行い、利用者が安心して利用できる運営を行っていく必要がある。			
施設の方向性			
鈴鹿市第1療育センターとともに、「児童発達支援センター」として、本市の児童発達支援における中心的な役割を担っており、引き続き継続した運営を行っていく。			